

双方向型啓発セミナー 「マネジメントシステムを経営力強化に生かす」開催

プライバシーマーク、ISO、いずれの認証にもマネジメントシステム (MS) が要求されているからには経営に役立つものであるはずである。しかし現実には、「認証取得のため」が前面に出てしまい、なかなか経営には結びつかない、あまり役に立たない。



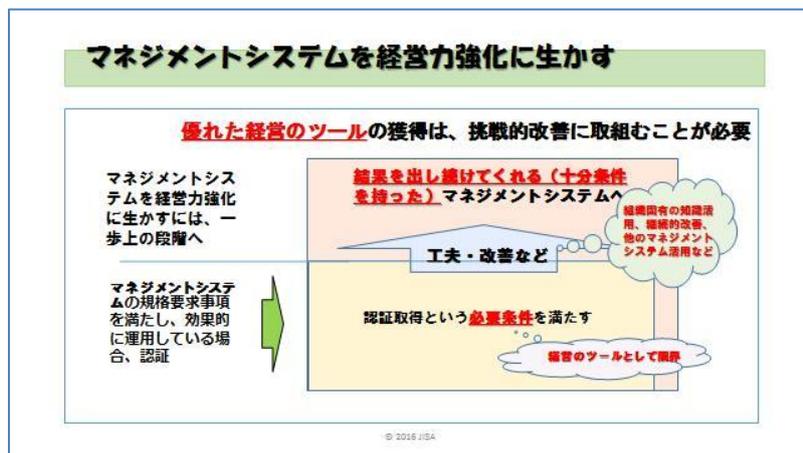
平成28年7月25日、多くの会員企業から聞こえてくるこうした「半ば諦めの声」を背景に、「マネジメントシステムを経営力強化に生かす ～経営力強化のためのMSの磨き方～」と銘打ってJISAは啓発セミナーを開催した。

このセミナーは、認証取得が目的の受け身的なMS運用から長期的な展望による企業存続上の責任、ビジネスの差別化、企業体質の改善の機会と捉える積極的なMS運用への転換について、講師と企業経営陣とのコミュニケーションの位置づけで審査業務部が企画したもので、会員企業の代表取締役をはじめ、個人情報保護管理者、情報セキュリティ管理責任者、監査責任者の任に就く経営陣14名が参加した。

講師は飯澤路規(いゐざわ・みちのり)氏。JISAのプライバシーマーク審査や日科技連における種々のISO審査、セミナー講師などに従事している。

はじめに飯澤氏は、「MSはお荷物か、経営に役立たないと思っているMSを続けるのは何故か、審査の時だけMSを繕っていないか、MSを使いこなせないために、MSは役に立たないと思っているか、審査の時だけMSを繕ってはいないか」と参加者に問うた。

このセミナーの副題を「経営力強化のためのMSの磨き方」とした。飯澤氏は、MSを刀



に見立てて、「刀は磨かなければ切れない、すなわち、MSは継続的改善がなければ、意図する結果は得られない。当然のことながら認証取得が企業を成長させるわけではない。認証取得はあくまで必要条件であって、

組織固有の知識活用、継続的改善、他のマネジメントシステムの活用などを通じて十分条件を満たしたマネジメントシステムに育てなければ経営には生かされない！」と切り捨てた。

そして、MSは多くのプロセスによって構成され、また、機能していることを説明。リスクの認識、教育、監査、運用の確認、感視（＝飯澤氏による造語で、五感を使って監視することを意味する）、是正対応、マネジメントレビュー、委託先管理、不適合管理、記録管理など、これらのプロセスについて、また、ISO 他いろいろなMS規格の有効活用について、対話を交えながら詳細に解説した。

主催者としては、このセミナーを通じて、参加者に幾ばくかの「気付き」を与えることができれば御の字としたが、参加者は、特に「効果的な教育にはデザインが必要」「運用の感視計画にもデザイン性が必要」「監査の顧客は誰か？＝経営者」「マネジメントレビューは重要な経営資源だ！」の解説に対して、「目から鱗が落ちた」「マネジメントレビューの重要性を理解した」「経営方針に則ったデザイン性のあるマネジメントシステムにすべきことを理解した」との所感を述べており、所期の目的は達成することができたものとする。

最後に飯澤氏は、「PMSやISMSは、本来は不幸な社員を作らない機能、社員を犯罪者にしない機能を持っている。ぜひとも、やってよかったPMS、取ってよかったISMSと思えるように貴社のマネジメントシステムをデザインしてほしい」と締め括った。

(薦田)